

## 英語科：1 学年スピーチコンテスト

7 月 14 日 (水) 15:30~17:00 @LL 教室

各クラスで選出された代表 2 名、計 16 名が素晴らしいパフォーマンスを披露しました。それぞれが個性的なテーマについて、のびのびと自分の考えを披露していました。



### ＜＜結果＞＞

1 <sup>st</sup> place	Ms. K.A.	“Spaceship Earth”
2 <sup>nd</sup> place	Ms. M. M.	“The Spirit of Ochazuke ‘Shimatsu’”
3 <sup>rd</sup> place	Ms. M.K.	Do “Bad” Accents Exist?

1 位の K.A さんは、10 月 10 日(月)に開催される、第 58 回東京都高等学校英語スピーチコンテストに出場します。Congratulations!

## Global Leader 研修：OBOG によるファシリテーションセミナー

6 月 20 日(月)15:50~17:50 @LL 教室

過去のグローバル研修のメンバーで構成される組織「G10 Alumni」が今年の研修生のために企画してくれました。研修の内容は、ずばり「話し合いの仕方」。提言の作成にはメンバーでの話し合いが不可欠で、質の高い話し合いができれば自然に提言の内容も深まりますが、実際には毎年参加メンバーが苦勞する部分 でもあります。

自分たち自身の経験から、OBOG 達が後輩たちにとって必要なスキルを身に着けられるようにと企画してくれた、まさにカスタムメイドの研修です。オンラインと対面のハイブリッド形式で実施されました。



### ＜＜研修の内容＞＞

- (1) 探究的な学習がなぜ大切なのか
- (2) OBOG によるデモンストレーション
- (3) 生徒による実践
  - 議題①：満員電車をなくすための方策を考えよう
  - 議題②：中学校の授業に新しい教科を作ろう



### ＜＜参加生徒の感想から＞＞

◎ 書き出すことの効率の良さに感動した。自分は今まで自分の考えをメモのような形で出すことはしてこなかったが、自分にとっても他の人にとっても得しかない。自分の今までに少し後悔を覚えました。

◎ 意見を多く出したり、出た意見を発展させ深めることで議論を活発にするのは得意だということを再認識することができた。逆に、議論の全体像を踏まえてディスカッションを進める能力が今の自分には欠けていることに気づかされた。例えばテーマから派生したトピックが広がっていくことや、議論の目的・ゴールを意識して議論を進めていくことなどは意識的にコントロールすべきもので、今の自分の議論への仕方は、そういった部分が不十分だと考えた。グループ内での打ち合わせなど細かな機会の中で意識して実践していき、自分のものとして身に付けていきたいと思う。

## Global Leader 研修：経済産業省訪問『福島原発を考える』

6 月 21 日 (火) 16:00~18:30 経済産業省にて

経済産業省で福島原発を担当する部署に所属する若手官僚の方々から、前半に福島原発の現在を講義していただいた後、後半の時間で以下のテーマについてグループディスカッションを行いました。生徒は事前に資料を読み込み、ディベートをして与えられたテーマに対する理解を深めて研修に臨みました。そうした努力が実り、経産省の方々も予定時間を超えて、真剣に向き合ってくださいました。

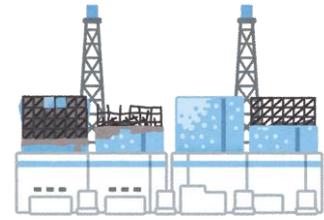
A グループテーマ：国際社会の一員である我が国として ALPS 処理水の海洋放出について国際社会にご理解いただくため

にどのようなことを行うべきか。

B グループテーマ：海洋放出を決定した政府としては、海洋放出に対して反対意見を持つ方々に対して、どのような対応をするべきか。

<<参加生徒の感想から>>

Firstly, we classified people on the negative side into two groups: those concerned and those on the outside. By classifying them, we could try to find the solutions to each of their problems. Moreover, we also talked about how it is difficult to express the number of harmful rumors. The power of figures is really useful in explaining the effect in the society. Having a discussion in the METI made me really nervous, but it was so enjoyable and precious experience. It was rewarding to be able to explain my ideas in front of the officials, and I think we were able to have quite a nice discussion. I learned that when you have a discussion, it is really important to keep the end of the discussion in mind. In that way, you can get back on track whenever the discussion starts wandering. (24R A.M. さん)



I learned how the METI officials are anguished with their work trying to make the critics understand their plans for the nuclear plants in Fukushima. We crammed in the knowledge about that and discussed how to make the opponents understand the conclusion of METI, but we didn't come up with any novel ideas. They had already done everything they could do. It never occurred to me that they answer all the questions they receive from other countries, and they disclose enough information. They are even raising fish in the treated water to show that it is safe. However, we didn't know that because the press doesn't mention that so much. I wondered whether it was right to ignore the problem. Now is when we must act to make the dissenters understand the situation properly in order to get them to concur with the government. I appreciate METI employees providing us such a precious opportunity. (25R Y.M. さん)

In the lecture at the Ministry of Economy, Trade and Industry, I learnt what is required in discussing an unanswered question such as the decommissioning plan of Fukushima Daiichi nuclear power plant. One important thing is to have a wide range of knowledge across various fields. In considering such a topic, it is important for us to have various points of view in order to think multilaterally and critically. I felt its importance deeply when the officials we discussed with answered my question in the discussion. I haven't taken enough time to learn about topics which I am unfamiliar with, yet I realized that such time directly connects to the ability of discussing or conducting research. I would make an effort to spare my time to do so.

Moreover, I found it very interesting to have a discussion with people who have professional knowledge about the theme of the discussion. I thought I was lucky to have several chances to have such an experience (26R A.T. さん)

## ➔ Global Leader 研修：JET によるプレゼン検討会

7月4日(月)15:30～17:00 @28R

提言の中間発表を英語で行いました。10月に予定されているアスペン研究所に向けた提言発表は英語で行うため、その準備と予行練習を兼ねたものです。Len や英語科の先生方から内容に関する厳しい指摘があっただけでなく、慣れない用語も出てくる原稿を発表するのに苦戦していました。これから夏休みのまとまった期間を活用して内容をブラッシュアップしていくために十分な危機感が持てたことと思います。

<<提言のテーマ>> ※7月4日現在

- A グループ：フードバンクと堆肥センターの協働により食品廃棄量を削減する
- B グループ：昆虫食の普及に必要なこととは



### 【今後の予定】

- ・第3回プレゼン検討会 OBOG による指導 (8月中旬)
- ・夏期集中研修中に Dr. Ong at Stanford University から指導 (8月下旬)
- ・夏期休暇中に国内の専門家を交えた検討会 (予定)
- ・第4回プレゼン検討会 10月10日(月) 15:30-17:00 (予定)  
↳ 第4回には在校生の皆さんもぜひ参加してください。

## ➔ グローバル委員会：JET による特別講義 Unraveling Roe v. Wade

7月11日(月)15:30～17:00 @LL 教室

6月24日にアメリカ連邦最高裁が、「ロー対ウェイド」判決(1973年に女性の人工妊娠中絶権を合憲とした連邦最高裁判決)を覆したことは日本でも大きなニュースになりました。今回の講義では、歴史的な経緯や社会的背景、法制度などを英語で議論しながら学びました。

急な告知だったにも関わらず、最大40名もの生徒が参加し、社会問題に対する関心や英語を使って議論をしたいとい

う意欲が高い生徒がたくさんいることが分かりました。

グローバル委員会では、今後もこうした講義を企画していきます。

※ 当日のパワーポイントは teams 上で見ることができます。(この企画を通知したメッセージに添付されています。)

## ▶ スペイン語講座 不定期土曜日 13:00~15:00 開催

◀◀日比谷高校では何か国語学べるか知っていますか?▶▶

日比谷高校が力をいれているのは英語教育だけではありません。

木曜日の8・9限に第2外国語(独仏中韓, うち独仏はネイティブスピーカーと日本人講師のTT)が2年生対象に開講されているのに加えて、年間10回程度、土曜日の午後に初級のスペイン語を学ぶことができます。

実際、異文化に対する興味関心から、また将来グローバルに活躍するために、英語以外の講座を積極的に受講している生徒が一定数います。

中でもスペイン語講座が特別なのは、初級講座でありながら、スペイン語のネイティブスピーカーの先生が英語を使って教えてくださることです。

今年度はすでに講座がスタートしています。在学中であれば誰でも受講可能ですので、興味のある人はぜひ来年度の受講を検討してみてください。  
(記事冒頭の質問の答え: 英語を含めて6か国語!)

## ☆ その他のイベント紹介 ☆

### ▶ 第71回チャーチル杯争奪全日本高等学校生英語弁論大会 募集期間8月2日23:59まで

主催: 関西学院大学英語研究部, 青山学院大学英語研究部 後援: アメリカ大使館

日時: 東日本予選2022年10月1日(土)in 青山学院大学

本選2022年10月30日(日)in 関西学院大学

応募要件: 英語を母語としない者に限る ①申し込みフォーム ②弁論原稿 ③音声情報 の3点を提出する

※ 詳しい応募要項はwebにて確認してください。 <https://churchilltrophykgu.wixsite.com>

### ▶ 第3回アメリカボウル ~英語クイズ・ゲームでアメリカへ行こう!~

2022年11月19日(土)13:00~17:00

@港区赤坂区民センター 主催: 一般社団法人日米協会

◀◀アメリカボウル大会の趣旨▶▶

本大会は、日本人高校生が英語を通してアメリカに関心を持ち、日米関係についての理解を深めることを目的としています。大会では、アメリカの歴史・文化・芸術・地理・政治・経済・社会・科学・日米関係などについて、英語での質問やゲームを通して競い合います。大会参加を通じ、高校生たちが将来よりよい日米関係を築く担い手になることが期待されます。

【チーム編成】 学校単位で、2名または3名のチームを編成し応募します。各校からは1チームが参加できます。

【賞品】 上位3校(+1校)のメンバーを春季休暇中に約1週間の短期米国訪問プログラムへ招待します。

【参加資格】 高等学校および高等専門学校に在籍する日本国籍を有する高校生で、以下に該当しない者。

(a) 満5歳の誕生日以降に英語圏に居住経験がない

(b) 英語での教育を受けたことがない

(c) 保護者や同居親族に英語圏出身者がいない

※ 応募を考えている場合、websiteにて詳細な応募要件や付帯事項を確認してください。

参加希望者はチームを作って、9月13日(火)までに深宮(グローバル事業部・英語科)まで申し出てください。

(複数のチームが参加を希望している場合、校内で調整を行います。)

### ▶ Global Talk! 2022-2023 8月5日(金)23:59 応募締め切り

主催: アメリカンセンター, 在日アメリカ大使館

アメリカで日本語を学ぶ学生と、日本で英語を学ぶ学生をつなぐプログラムです。英語と日本語の二か国語で行う同世代との交流に教室や学校の枠を超えて参加できます。

